

脂質異常症について



「メタボ」と聞いて耳が痛い人も多いのではないのでしょうか。メタボリックシンドロームの診断基準の一つに脂質異常症があげられます。

脂質異常症とは、血液中のLDL（悪玉）コレステロールやトリグリセリド（中性脂肪）が過剰な状態またはHDL（善玉）コレステロールが少ない状態をいいます。その中でも動脈硬化と関係が深いのはLDLコレステロールです。LDLコレステロールが必要以上に存在すると血管にコレステロールが蓄積され動脈硬化を起こし、放置しておくとう血管が狭くなったり詰まったりします。これが心臓で起こると狭心症や心筋梗塞になり、脳で起こると脳梗塞になり、突然死に至ることもあります。血液中のLDLコレステロールを下げるためには、食事、運動、薬物の各療法をバランスよく行うことが重要です。

そもそも、血中の脂質とはいったいどのようなものでしょう。主な脂質の種類とその役割をまとめると表1のようになります。

では、脂質異常症の基準はどうなっているのでしょうか。学会のガイドラインを参考にまとめると表2のようになります。まずは自分のコレステロール値を知ることが大切です。



食事療法や運動療法でもLDLコレステロール値が目標値まで下がらない場合は薬物療法を行います。LDLコレステロール値が下がっても中断せずに、治療を続けることが重要です。

薬物療法に使用される代表的な薬品の種類とその作用・効果と名前をまとめると表3のようになります。

コレステロールがどういうものか、今、内服しているお薬はどのような働きをしているのか、ご理解いただけたでしょうか。脂質異常症の理解の一助になればと考えています。（薬剤科長 杉田 卓）

表1 血中の脂質の種類と役割

総コレステロール	血液中のすべてのコレステロール
LDLコレステロール	肝臓から身体への組織などにコレステロールを運ぶ役目があります
HDLコレステロール	余分なコレステロールを身体組織から回収する働きがあります
トリグリセリド	エネルギーとなり、食後は高くなります

表2 脂質異常症の診断基準(空腹時)

LDLコレステロール	140mg/dL以上	高LDLコレステロール血症
	120~139mg/dL	境界域高LDLコレステロール血症
HDLコレステロール	40mg/dL未満	低LDLコレステロール血症
トリグリセリド	150mg/dL以上	高トリグリセリド血症

(動脈硬化性疾患予防ガイドライン2012年度版より)

表3 主な脂質異常症の治療薬

種類	主な作用・効果	主な薬品
HMG-CoA 還元酵素阻害剤	LDLコレステロール値を最も効果的に低下させる	メバロチン、リポバス、リピトール
陰イオン交換樹脂	LDLコレステロール値を下げ、HDLコレステロール値を上昇させる	クエストラン
プロブコール	強い抗酸化作用	ロレルコ
ニコチン酸誘導体	HDLコレステロール値を上昇させる	コレキサミン
フィブラート系薬剤	中性脂肪値を低下させる。 HDLコレステロール値を上昇させる	ベザトールSR
エゼチミブ	LDLコレステロール値を下げる	ゼチーア

三重病院 外来糖尿病教室 5月開催のお知らせ

低血糖について

糖尿病薬による低血糖は、日常生活に支障を及ぼすばかりでなく、糖尿病合併症にも良くありません。低血糖を起こさないように気を付けることが大切です。もし低血糖になった場合は適切に対応できるようにしておきましょう。

日時 平成25年5月29日(水) 14:00~15:00

場所 中央棟 大会議室(2階エレベーターホール前です)

担当 薬剤師、看護師

★どなたでも、ご興味のある方は、当日直接会場にお越しください。無料です。
お問い合わせは 059-232-2531 内科外来まで